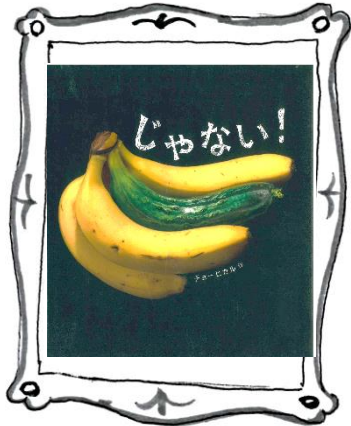




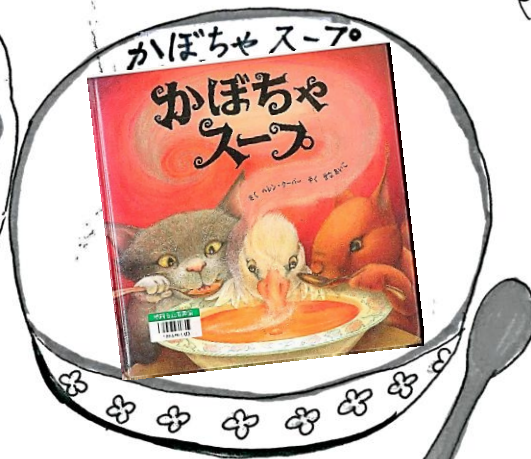
# 夏のえほんまつり

7月22日～8月22日の夏のえほんまつりに  
 たくさんのおともだちが、きてくれました。  
 クラゲの下でのおはなし会プレゼント  
 えほんクイズもたのしんでもらえたみたいでした。  
 おはなしポケットメンバーのおすすめ絵本はこんなかんじ↓  
 しりつとしよかんで、かりることができます。

2021年夏のえほんまつりのオススメ本



食欲の秋  
 しゃべり・おはなし・おはなしのシャワーを!  
 ハロウィーンももうすぐ



## NEWS ★おしらせ★

新型コロナウイルスのひろがりをふせぐ  
 ため、しばらくのあいだおはなし会を  
 おやめます。(8/19現在)  
 9月からのおはなし会についてはとしよかんの  
 ホームページまたはLINEなどでかきいれください



詳しくはこちら  
 つるおか市としよかん TEL (0235) 25-2525  
 ホームページ <http://lib.city.tsuruoka.yamagata.jp>



これから、少しずつ気温が下がり、空気が澄んできて、空を見上げる機会も増えるのではないのでしょうか。今回は科学絵本の分野から、小さい子ども向けに書かれている『あのくも なあに?』(富安陽子作 山村浩二絵 2018年刊 福音館書店)を紹介します。

絵本の中に、科学絵本と呼ばれる分野があります。それは、子どもの日々の暮らしの中で出会う生き物や植物を取り上げたり、暮らしの中の様々な疑問に答えてくれたりしています。今回取り上げた絵本は、空の雲のこと。でも、この絵本は、科学的なお話ではなく、子どもの考えた雲の世界をお話にしていて、子どもたちが空を見上げるきっかけづくりになっています。はたして、これを科学絵本と言っていいのかは、読み手の気持ちを尊重しますが、初出が『月刊ちいさなかがくのとも』(2011年7月刊)ですので、出版社の意図は、子どもたちが科学に興味を持つ一歩となることを願って出版されたものと思います。

ページを開くと画面いっぱいに空の雲。「あのくもなあに?」と尋ねると、「なんだろうね。」と答

えます。そのあとは、子どもの空想。最初の雲は、「カーテンぐもだよ、あのくもは。」と子どもが言います。次のページには、朝の光がまぶしくて、雲のカーテンを引いているねぼすけ巨人が、画面いっぱいに描かれています。この絵本に描かれている雲の種類は、五つ。想像の世界も五つです。

科学で言えば、小さな子どもでも「それは違うよ。」と思うかもしれませんが、「そうだったら面白いな。」と思う子。「空には、色々な雲があるな〜。」と思う子。「どうしていろいろな形になるのかな?」と考える子。どの子と読んでいる場面を想像しても、とっても楽しい気持ちになります。

絵本は子どもと読み手が向き合うものです。そして、そこから様々な行動につながっていくものだとも思います。絵本を読んだことで、散歩に出かけたくなったり、空を見上げたくなったり。お料理をしたくなったり、何か作りたくなったり。この秋は、読書からアクション!なんてどうでしょうか。楽しいと思いますよ。



「あのくもなあに?」  
富安陽子 文  
山村浩二 絵  
2018年刊  
福音館書店

# てあそび・わらべうた・やってみよう

## 『ほおずきばあさん』

子どもあそびの歌です。みんなでほおずきになります!



① おばあさん役とオニ役をきめる。  
のこりの子はほおずきになったつもりで、しゃがんで小さくなる。



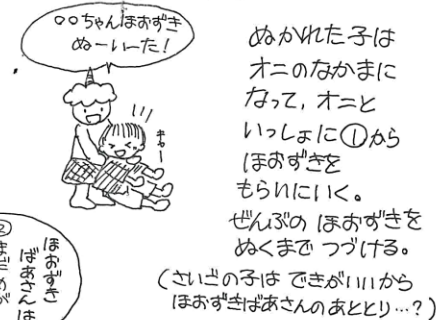
② リンはなれたところからオニがうたう おばあさんがうたう



③ オニはだんだんちかかいておばあさんがすしおあきい声でうたう うたう



④ オニはみどりの名前をうたいながらぬく。



引用・参考文献: 近藤信子『にほんのわらべうた①うめとさくら』福音館書店

ほおずき ばあさん ほおずき おくれ まだ めが で ない よ  
ほおずき ばあさん ほおずき おくれ もう めが で た よ  
ど れ で も い い か ら め い と く れ ○○ちゃん ほおずき め い た